文化財だより

第４号
平成３年３月
発行　真鶴町教育委員会

目　次

文化財の保護と活用で生涯学習を
町教育委員会教育長 牧岡靖治……(1)
郷土の寺院・神社めぐり
貴船神社。児子神社……(2)
瀧門寺。自泉院。西念寺……(3)
発心寺。常泉院……(4)
風外寿塔と天神堂跡……(5)
道標と道祖神……(5)
地域教育力活用事業……(6)
○真鶴小学校
「どんど焼き」……(6)
○岩小学校　探険クラブ
鹿島踊りに参加して……(7)
○真鶴中学校　有志
町史編さん室レポート……(8)
町民俗資料館　案内……(8)

特集　文化財の探訪

文化財の保護と活用で生涯学習を

真鶴町教育委員会
教育長　牧岡　靖治

昭和六十二年度から継続して文化財だよりを発行してまいりましたが、第四号でひと区ぎりをつけることになりました。

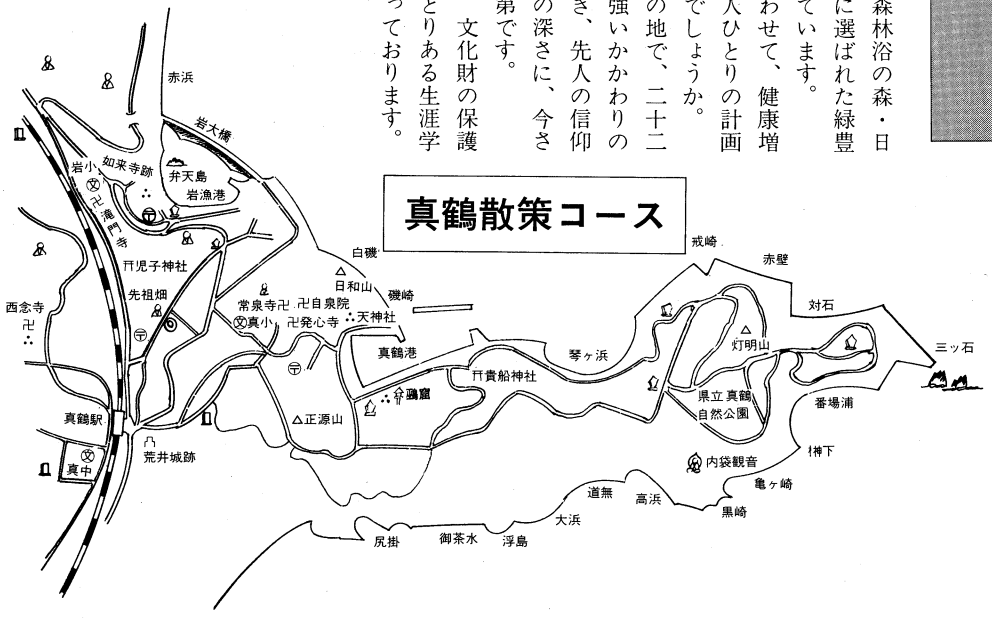
この号では、町内にある神社・寺院を主に紹介をいたします。真鶴町内を探訪すると、一寸した街かどに道祖神があり道標を目にすることがあります。歴史を物語るにふさわしい神社や寺院があり、縁起や史跡と共に貴重な文化財が保護されております。

県立真鶴半島自然公園は、昭和二十九年に指定を受け、さらに森林浴の森・日本百選（昭和六十一年）に選ばれた緑豊かな景勝の地が保存されています。

半島めぐりの散策と合わせて、健康増進と精神文化の向上を一人ひとりの計画で、実践してみては如何でしょうか。

禅僧の風外慧薫が真鶴の地で、二十二年間も逗留して、住民と強いかかわりのあった事実を考察したとき、先人の信仰心の高さと文化への関心の深さに、今さらながら感銘を受ける次第です。

多忙な日常生活の中に、文化財の保護と活用を組み込んで、ゆとりある生涯学習が充実されることを願っております。



神社めぐり

●貴船神社

所在地　真鶴一一一七番地口号

祭神　大国主神　事代主神　少彦名神

由緒

五十九代宇多天皇の寛平元年六月十五日の勧請で、以来、水火の災害に合い、社殿の移転改築が重ねられたと伝えられている。

天保五年七月七日失火のため社殿全部烏有に帰し、嘉永元年五月に新築した。明治元年従来貴宮大明神と称したのを現在の貴船神社と改称し、明治六年七月三十日、旧足柄県に郷社に定められた。

明治十年六月本殿・幣殿・神輿所などを増築し、旧社殿を拝殿とし、一倉明神を合祀した。さらに明治十八年二月境内神社淡島社を合祀し、同年四十二年十月二十二日神饌幣帛料供進神社に指定された。

大正十二年九月一日震災のため拝殿その他石垣等悉く崩壊、翌十三年七月仮拝殿を建築、昭和八年新敷地として、七百五十三坪を買収して境内の拡張を行い、昭和十年七月現在の地に移転した。

昭和三十八年十一月、本殿以下社殿の御造営工事完成し、銅板葺鉄筋混凝土流造りの立派な建築となっている。

縁起

貴宮大明神降臨之記が、文和元年六月十五日に、貴宮大明神々主平井入道浄玄により謹書され残されている。

境内神社

●船玉龍神社

祭神　大綿津見神、高靇神

●山神社

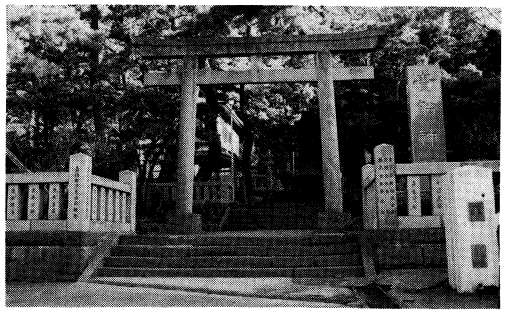
祭神　大山津見神

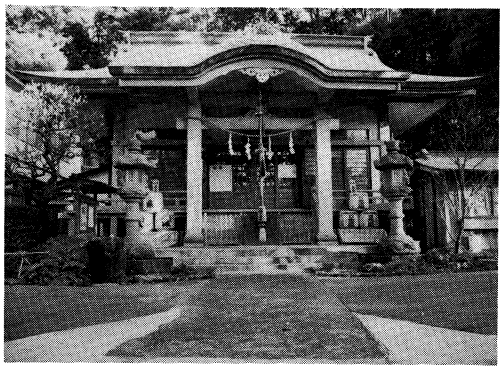
●祖霊社

祭神　歴代の神職・氏子総代・神社関係役員・町村長・本町出身戦没者

参考

境内の一角に和船の模型「貴船丸」が所蔵されている。これは、江戸時代に盛んであった真鶴の海運の歴史を物語るもので、町の重要文化財となっている。





貴船神社

●兒子神社

所在地　真鶴町岩六五三番地

祭神　惟喬親王と其の御子神

由緒

延喜年中の創立といわれるが、天保年間火災のため社殿を焼失し、古記録等はこの時に失った。

人皇五十五代文徳天皇の皇子惟喬親王僧となり、久しく本村光西寺に留まられたので、後にその霊を奉斎したという。

御子神は親王の御寝所いたく親王の御後を慕い給うのあまり、従者二人を従え二才になられた若宮を擁して当所に来られたが、若宮病を得て夭折されたので、御父と共に奉斎したと伝える。

明治六年七月三十日旧足柄県において村社と定められた。同二十六年十一月二十日本村大火に際し類焼した。昭和八年七月許可を得て字宮ノ上四三五番地より字台之坂六五三番地に移転し、同時に本殿幣殿拝殿神饌所神輿所等新築、昭和十六年五月三十日神饌幣帛料供進神社に指定された。

境内神社

●竜神社

祭神　綿津見神

●稲荷神社

祭神　宇迦之御魂神

●津島神社（飛地境内）

祭神　素佐之男神

●山神社（飛地境内）

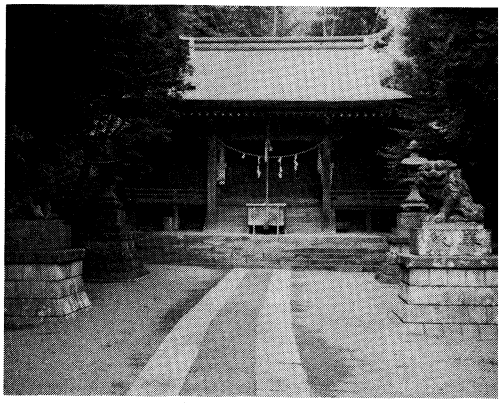
祭神　大山祇神

●合祭殿

祭神　素佐之男神　大山祇神

〈参考〉

源平盛衰記では、土肥次郎実平の外孫萬壽冠者の霊を祀るとあり、岩松山光西寺中へ葬り其の霊をここに祭ったと記載されている。廃寺になった後社地に五層塔を承応三年に建立したが、その後移され瀧門寺地内に保存されている。



兒子神社

郷土の寺院

多宝山 瀧門寺

所在地　真鶴町岩六九七番地

(1)曹洞宗　多宝山

(2)本尊　釈迦如来（伝弘法大師作）

○観音堂　十一面観音石像、不動・毘沙門木像

(3)本寺　静岡県田方郡韮山町南条一三八〇

◎昌溪院

(4)末寺○自泉院　真鶴町真鶴六五　○昌満寺　小田原市江ノ浦三二七　○如来寺　岩地内廃寺（弥陀）

○長昌院　岩地内廃寺（薬師）　○実相院　岩地内廃寺（弥陀）

(5)開基　天正元年（林屋和尚）

※原行青和尚　永正元年二月三日寂

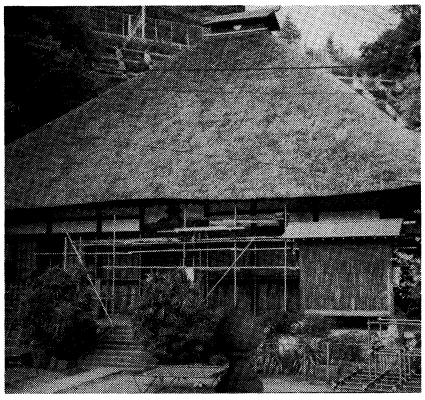
(6)参考

本堂の後背山腹に瀑布の跡がある。以前は『飛泉奔下する驟雨の如く』とあるので、堂々たる瀧であったらしい。左方岩腹に窟があり倶利加羅不動の石像を置き、下に道了権現社を祀ってあった由。

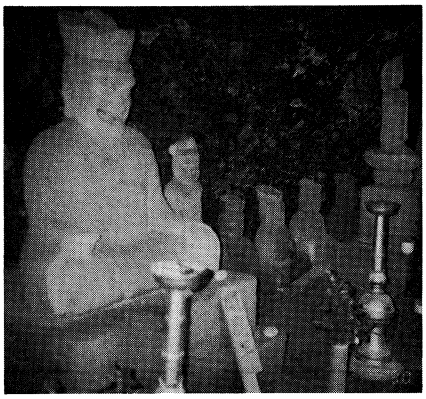
本堂内には、数々の仏像の他に、烏蒭沙摩明王の石像も安置されている。

墓地に、算盤を浮き彫りし「眉算盤花禅定門」の法名を刻んだめずらしい墓石がある。寺子屋が古くから(二七〇年前)この地に開設されていたことの証しとなっている。

廃寺となった如来寺跡には、環境整備事業が進められ、洞窟内へ十王像・正観音・地蔵菩薩が安置されている。



瀧門寺本堂



如来寺跡

水上山 自泉院

所在地　真鶴町真鶴六五番地

(1)曹洞宗　水上山

(2)本尊　釈迦如来　（伝運慶作）

(3)本寺　真鶴町岩六九七

◎瀧門寺

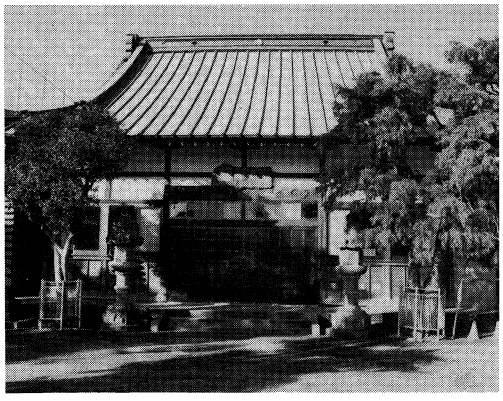
(4)開基　独翁宗存大和尚（天正十年）

(5)参考　※（柚山和尚）

本堂内に閻魔大王、地獄極楽図があり信仰を深めるように釈迦の教えを一般の人々へ呼びかけている。

真鶴は石材の豊富な地なので石仏が多く境内に水子地蔵及び六地蔵像が本堂の横に安置されている。

ラマ三世（寝釈迦）像〈一八三〇〉と経文箱〈一七六〇〉も最近奉納されている。



自泉院本堂

湊上山 西念寺

所在地　真鶴町真鶴一九二五番地

(1)浄土宗　湊上山　来迎院

(2)本尊　阿弥陀如来（伝恵心作）

(3)本寺　小田原市山王原三五一

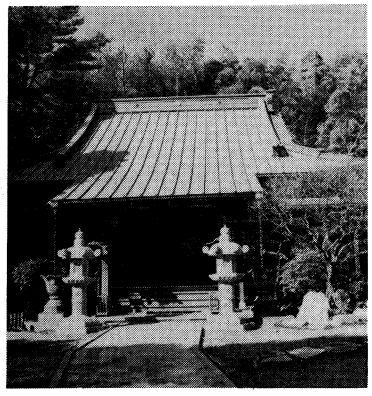
◎心光寺

(4)末寺○了西院・迎西院他に一寺と伝う

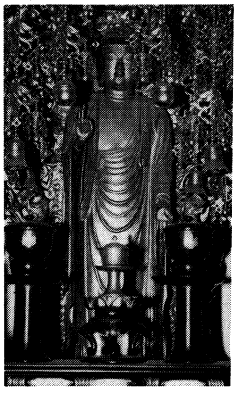
(5)開基　天正元年、僧長卯草創

(6)参考　※（城誉上人）

黒田築前守長政基が建立されている。これは、長政十三回忌に家臣小河織部正良が寛永十二年八月四日施主となっていて、当村に黒田氏の採石場があったのを後世に伝える貴重な資料である。



西念寺本堂



阿弥陀如来

仏光山 発心寺

所在地　真鶴町真鶴六三八～一

(1)浄土宗　仏光山　亀宝院（旧報身院）

(2)本尊　阿弥陀如来（伝聖徳太子作）

(3)本寺　小田原市南町二ノ四

◎大蓮寺

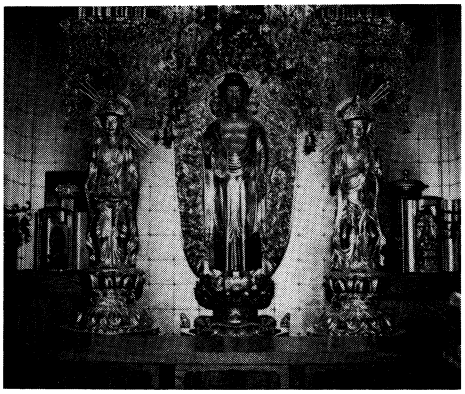
(4)末寺○門川村　正法寺

(5)開基　弘治元年僧貞巌建立と伝う

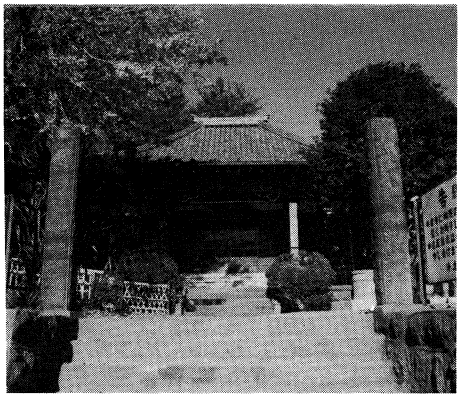
(6)参考　※（念誉上人）

御本尊は、本造阿弥陀如来立像で上品下生印をむすぶ通常の来迎仏で、舟型挙身光背と多重蓮華座を備えた仏像。平安中期風を残す平安後期初頭ころの作と推定される正統的穏和な表現は極めて秀逸であり、真鶴町重要文化財に指定された。

最近、須弥壇が改修され、脇侍の法然上人像・善導上人像が金色に輝やいている。



阿弥陀如来像



発心寺本堂

清涼山 常泉寺

所在地　真鶴町真鶴六四七番地

(1)曹洞宗　清涼山

(2)本尊　木造延命地蔵菩薩（伝行基作）

(3)本寺　小田原市早川七六六

◎海蔵寺

(4)開基　海蔵寺七世明厳良哲丈和尚開山（天正元年九月二十八日寂）

中興開基赤光浄玄居士（俗名平井孫兵衛、天和元年没）

(5)参考

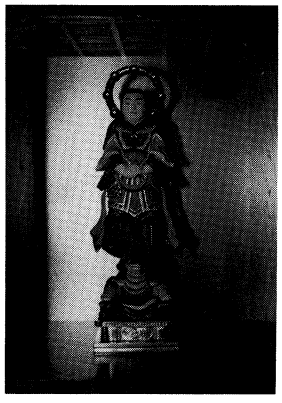
境内に妙見菩薩像を安置する妙見堂がある。この妙見菩薩は古代インドにおいて、星を神格化して崇められていた神で仏教に仏法の守護神としてとり入れられわが国へ伝来されてよりは方角・天文を観る職種の人達に特に信仰されている。

海の仕事の多かった昔の真鶴の人達は「正福寺（廃寺）の妙見サン」として親しみ拝んでいたようである。

なお、ご本尊の他に聖徳太子像を納めた太子堂も立派である。

本堂前には、めずらしいブーゲンビレアの花が植えられ、松の老木が古い時代の歴史を伝え、その樹下には子育ての石仏がある。

常泉寺本堂

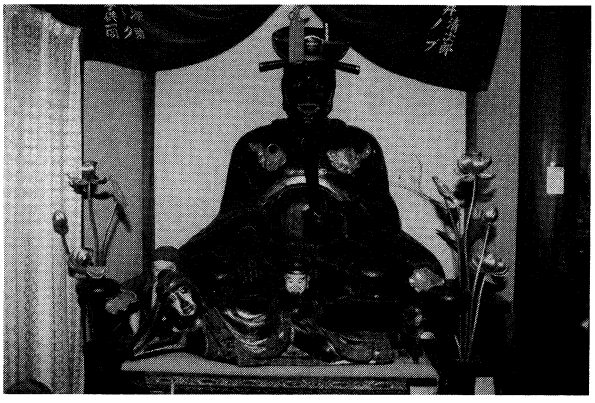


妙見菩薩像

神社・寺院めぐりの手引き

文化財を保護し、貴重な資料を保存することが大切であることは言うまでもない。多くの人々に拝観して頂くことは誠に有難い訳ですが、事前に連絡をとり、所有者の了承を得て訪問することが常識であろう。

一般へ開放して、多くの人々へ、理解をされ、人生の充実・向上に役立てることの意義は尊いものです。真鶴には、道祖神や山の神など野外仏も多く、地域の信仰を集めているので、皆様方のご協力により心豊かなものにしたいと思う。



自泉院閻魔大王

旧跡をたずねて

風外寿塔と天神堂跡

所在地　真鶴町真鶴四六　堂地内

天神石宮造建碑と風外寿塔の二点は、風外道人が居住の跡を今に伝える地に残されている。

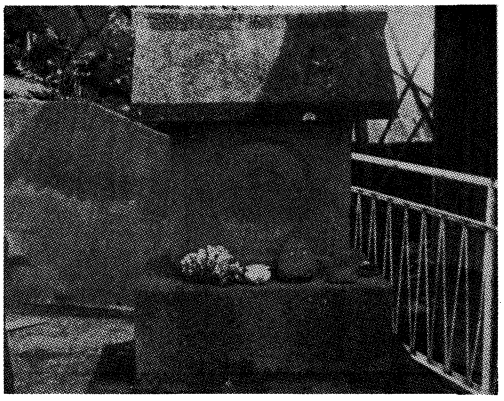
風外道人は、江戸時代の初期の禅僧で書画に秀れた才能を発揮し、画筆は松華堂と比肩される人物である。群馬県松井田町の土塩に生まれ、双林寺にて修業、中年に小田原へ至り、成田庄の成願寺に住持した。俗務をいとい田島及び曽我山中に穴居し、穴風外の別名で呼ばれ、六十一才寛永五年頃真鶴に移って、二十二年間東海岸磯崎の地に穴居した。

寛永七年（一六三〇）天神堂を開き天神木仏をまつり、当時の住民の信仰を集めた。八十四才頃、漂然と真鶴を去り、伊豆竹溪院に移り居ること三年、俗人の来訪激しきをいとい再び漂然とこの地を去って、浜松在の金指に移り間もなく村人に穴を掘らせ、その中で立亡した。

風外慧薫研究で有名な元真鶴町長松本赳氏が風外について解明されているので風外道人の真鶴における姿は極めて詳細になっている。

町重要文代財指定の物件は数多くあるので次に紹介すると、古文書の部では、「鵶窟縁起」「源頼房公来駕記」。（水戸黄門が五味家へ駕駐した記録）や、「巖屋縁起日」「貴宮大明神縁起」「貴宮大明神寄集奉加状」「真鶴八詠」。（以上貴船神社）など、風外直筆の書があり、彫刻・美術の部では「布袋図」（町教委）「風外手跡（12点）」条幅（瀧門寺）などがある。

この外、町内に「達磨壁観の賛図」・「布袋和歌賛図」・「我見二行書」・「名号書」（松本敬氏）「布袋」（三木三男氏）「達磨図」（楢原正愛氏）（柳井要太郎氏）「禍福一行書」（佐藤奉三氏）など遺墨や絵画が残されている。



天神社

道標と道祖神

道標は、古道の位置を示すと同時に、その時代の村落の生活を知らせてくれます。町に残されている道標は四基であるが、いずれも当初建てられた位置とは多少移動されているものの古道確認の重要資料となっている。

(1)真鶴、荒井城祉入口

㊤　右阿たみ　㊥　左満なつる

慶安年間（一六三八～一六五二）

※真鶴駅貨物ホーム南側にあったもので、当時の北側に位置したもの。

(2)釈迦堂入口

左といみち

右ふくうらみち　　御守杢兵衛

元録　七年

(3)児童館前

蛭出しや　花はちら〳〵右小田原

目はきよく　左あたみ

(4)岩、長坂住宅、道路

右あたみみち

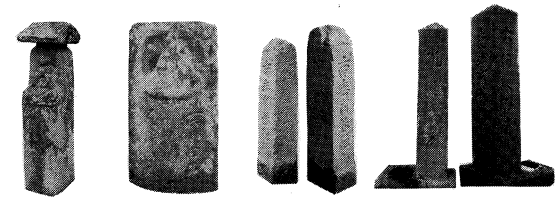
左いわむら

安永二年

道祖神は、庚申塔・道標などと共に石造文化財の中でなじみ深いものです。真鶴町内に11か所25基の道祖神が確認されています。

庶民の間で身近かな信仰となっていて現在でも、サエノ神・ドンド焼きなどの正月行事として伝承されている。

道祖神



道標④　道標③　道標②　道標①

町内道標

地域教育力活用事業
真鶴小学校

真鶴の話を聞いて

鈴木　真海子

青木重春さんに、小学校時代の想い出を、思い出すままにお話ししていただきました。とても良いお話しでした。

昔の真鶴小学校には、プールがなかったので、海で泳いでいたそうです。今とちがって、真鶴には、泳げない子なんてほとんどいなかったそうです。

夏休みには、夏休みの学習帳をやった後、毎日のように海で遊んでいたそうです。文字通り「我は海の子」のような感じだったと聞いて少しうらやましい気持ちになりました。

子供達は、鬼ごっこや、コマ回しなどをして外で元気よく遊んでいたと言います。少数の友達とでなく多勢の友達と遊べるような遊びをしていたそうです。今の子供が、ファミコンに熱中するのと同じで昔の子供達も、鬼ごっこなどに熱中していたそうです。元気一杯だったのでしょう。

最後に、私達がすばらしい大人になってこの町を良くすることが青木さんの唯一の願いである。とお話されました。なにか新たな責任感のようなものが、私の心の中に芽生えてきました。

おじいさんの話を聞いて

青木　公範

僕は始め、おじいさんの昔の学校の話しを真剣に聞いていませんでした。昔の学校の話しは、開校記念日の時、小学校のOBだった人達の話を何回も聞いた事があるからです。

でも、いつの間にか、おじいさんの話しを真剣に聞いていました。

話が終った時に、考えさせられる事が二つ強く心に残りました。

一つは、当時の遠足の話しです。なんと、熱海まで徒歩だったという事です。しかも、それは、一、二年と聞いたから、びっくりしました。それに比べて僕達は遠足といえば、バス、電車で行動しています。遠足というのは、自分で一生懸命歩いて、目的地に着くから楽しいんじゃないかな。と、考えてしまいました。

後一つは、当時の水泳の話です。一年から六年まで、一緒に近くの海まで行って、泳いだそうです。そして、泳ぎの下手な人は、泳ぎの上手な人に教えてもらったそうです。当時の生徒は、いろいろ助け合ったんだな。と、思いました。今では、お金を頂いて、水泳教室などを開いています。

なんだか、文明が発達し、生活が豊かになっていくに連れて、心がだんだん貧しくなっているような気がしました。

「どんど焼き」岩小探検クラブ

私たちは、探検をしながら、せまい岩の中でも、歴史のある色々なものを知ることができます。

六年　織壁　恵子

私の家の方では、毎年決まった場所でお団子を焼いたり、小さな子どもはたいこをたたいたり、子どもたちにおかしをあげたりします。どんど焼きは、二番目のお正月とも言い、道祖神と関係があるものだと知りました。昔の人の生活の中に、外からの疫病や悪れいを追いはらうという言い伝えがあり、大きな役割を果たしたそうです。

六年　宮川　利江

私は、どんど焼きについて色々なことを知りました。以前は、ただ団子を焼いて食べるというだけで、意味は全くわかりませんでした。調べていくうちに、道祖神とのつながりがあることがわかりました。火に当たったり団子を黒く焼いて食べたりすると、風邪をひかないといい、伝染病がこわかった昔の人の願いがこめられているのがわかります。

六年　星野　和義

古いお礼やだるま・しめ縄などを追いかけると、どんど焼きの場所に行きます。日本全国で、正月の終りには似た行事があるそうです。その時、三又だんごといって、だんごを作って三又の木にさし、火に入れるのです。習字をもやしてみたら、ぜんぜん上がりませんでした。

五年　保坂　恵

どんど焼きのことを調べてみました。毎年小正月に行われる行事で、お正月にかざったおかざりや書き初めをもやし、その火でおだんごを焼きます。そのおだんごを食べると、一年間病気にならないという言い伝えがあります。書き初めが空高くまい上がったら字が上手になるそうなので、私もやってみたいと思います。

五年　小泉　薫

どんど焼きは、年に一度、だるまをもやし、おもちを焼き、おもちを食べてにぎやかにする行事です。ぼくの家でもおもちを焼きに行きます。その時、昔村人に悪がとりついて、その悪を道祖神がおいはらったという話をききました。本当なのか、信じられなかったです。

四年　高橋　勝昭

ぼくは、きょ年はじめてどんど焼きに行きました。おだんごがぜんぶ焼きおわるまでまって、その間におまんじゅうができたので、いっしょにみんなで食べました。神だなにのっているものも焼きました。習字ももやしてみました。でも、なかなかじょうずになりません。

鹿島踊りに参加して

真鶴中学校　有志

伝統と格式の高い祭り　久保谷政義

貴船神社はなんと八八九年に出来たのだという。今年はもう千百一年もたっているのだ。こうして考えると、貴船祭りというのはすごく伝統と格式の高い祭りなのだなあと思う。僕は、今年の貴船祭りで鹿島踊りという大変重要な役割を果たした。確かに鹿島踊りは大変だけど、周りの人からは「えらいえらい」と言われるのは気持ちが良かった。伝統ある鹿島踊りを終わらせてはならないと思った。

10年前の鹿島踊り（昭55.7）

横浜博へ出演　内藤　裕二

僕は、小学校六年生から始めて四年目です。この四年間で一番印象に残っているのは、横浜博で踊ったことです。イベント広場で踊って、大勢の人が周りを取り囲んで見てました。真鶴で大勢の人に見られるのは慣れていたけれど、真鶴で踊ったときよりけたちがいで、たまげてしまいました。今度来年からははやしに移りたいから、後輩がんばってください。

今年はよくできた　越地　一也

鹿島踊りは小五になるまで僕は知らなかったという地味な（かもしれない）踊りだ。それで、かなり楽だろうと思って軽い気持ちでやったら、すごくハードだった。でも、休むときはものすごい間、休みもあったし、つらくはなかった。今年は、去年のように土砂降りもなかったので楽にできた。来年やるかどうかは、そのときになんなきゃわからないけど、今年は良くできたと思う。

練習に耐えた　青木　伸隆

祭りの日はどうせ暇でやることがないから、皆で鹿島でもやろうぜ。と決まってやることにした。毎日、血や汗や涙を流しながら、つらい練習に耐えた。そして本番がきた。楽しみにしてたけど、あんまり楽しくなかった。でも、来年から工夫をして、もっと楽しく皆が踊れるようになればいいと心の底から思っている。

案外おもしろい　露木　篤徳

僕が鹿島踊りをやったのは、中学の三年からだけど、今考えるともっと前からやりたかったと思った。でも、鹿島をやる前は、鹿島なんて難しそうだったんだけど、いざやってみると案外おもしろくて、そんなに難しいものでもないと分かった。来年もできたらやりたい。

夏休みの思い出　勝　友則

今年で四年目になる鹿島踊りだけど、今回はＮＨＫが来ていたから、「やっていて良かたなあ」と思った。今年は晴れていたので、ものすごく暑くて、たまらなかった。しかし、今回は今までにない経験ができた。参加後、バス旅行もあったのですごく良かった。これらのおかげで夏休みの思い出もできた。

保存会に入りたい　橋本　欽央

僕は、この鹿島踊りをやってとてもうれしかった。なぜかと言うと、踊りもとても旨くできておもしろかったし、町民の皆さんにも見て評価してもらい、満足してもらえたと思うからだ。

だから、これからも毎年この鹿島踊りをやってこの保存会に入りたいと思った。

鹿島が好き　橋本　大武

僕は今年鹿島をやった。鹿島というのは踊りだ。ただ踊んじゃなくて、うちわと着物を着て踊るという、かっこわるい踊りだ。でも僕は鹿島が好きだ。大好きだ。来年もやりたいと思っている。だけど来年ははやしがあるから、鹿島にいかないかもしれない。でも暇だったら行こうと考えている。

外人さんにもてた　露木　大介

鹿島はいろんなもんもらえていいけどすげえ疲れるから大変だ。とくに二日目は地獄だ。時々しんちゃんとかいうデブのおじさんがいる。その人は、いつもランニングのシャツを着てハイライトを吸っている。いきなり来て、

「おめえらだめだー。」

とか言う。すげえ笑えた。鹿島をやったら、外人さんにすごいもてた。金髪のねーちゃんにキスしてもらった。

楽しかった　青木　修一

初めての鹿島踊りで緊張したけど、やってみておもしろかった。練習前に、前にやったことがあるという人に聞いてみたら、「すごく疲れるよ」って言ってたけど、皆行くからちょっと行こうかなと思って行った。昼御飯がまずかったけど、八月十四日に行ったバス旅行が楽しかったから満足した。もっと前から行ってれば良かったと思った。

（備考）

貴船神社祭礼

神奈川県指定無形文化財（昭・33）

神奈川県指定無形民俗文化財（昭・51）

町史編さん室レポート

郷土の古美術
――真鶴町指定文化財――

古美術とは古い時代につくられた美術品のことですが、郷土の古美術にはどのようなものがあるでしょうか、以下にその代表なもの五例を紹介します。

◇

二十四孝の木彫（貴船神社）　貴船神社拝殿の欄間と脇障子にずらりとはめこまれている、豪華な十三点のケヤキ材透彫（すかしぼり）です。

嘉永元年（一八四八）社殿造営の時、伊豆国江奈の名工石田半兵衛によって彫刻された、「龍神」のほか「二十四孝」（中国の昔から伝えられる二十四人の孝子）の中の十二人の姿が見られます。

◇

宝篋印塔（滝門寺）　岩小学校校庭前の道端にある、高さ六メートル余のみごとな石の塔です。明和四年（一七六七）滝門寺十三世了梧和尚が、村の繁栄と来世の幸せを祈願し、村人の浄財をもとに建立したもので、小松石の彫刻としても美術的価値の高いものとさるています。

宝篋印塔（ほうきょういんとう）は、内部に経文を納める中国伝来の石造形式で、特徴ある端正な形をしています。

宝篋印塔

◇

如来寺梵鐘（滝門寺）　滝門寺に保管されている岩村如来寺（明治初年に廃寺となる）の釣鐘で、表側を囲むように刻まれている銘文から、鐘楼建造（宝永二年＝一七〇五）の経緯や、村の古い呼び名（祝村・祝里）が知れます。

またその巧緻な工芸手法は、当時の鋳造技術の水準をよく表しています。

◇

風外道人手跡（滝門寺）　郷土ゆかりの禅僧・風外和尚（寛永のころ二、三十年ほど当地に在住）の対句真筆十二幅。一幅の大きさ縦133cm、横56cm。これほどの数がそろっている例はめずらしく、たいへん貴重な郷土資料です。

◇

阿弥陀如来像（発心寺）　ヒノキ材の一本造、像高98cm・総高196cmの来迎仏立像で、平安時代後期の作と推定される町内最古の仏教美術です。

古色を帯びた御本尊で、旧来は一般の目につきにくかったものが、先ごろ神奈川仏像研究会の鑑定・補修を経て、光まばゆい黄金仏として開眼いたしました。

民俗資料館案内

昭和61年2月19日に、岩地区在住の土屋文雄氏の御厚意で、土屋家旧宅を借用して開館した。

土屋家は、衆議院議員土屋大次郎（明治時代後期）を輩出したほどの名家で、代々石材工業を経営し東京都内で建築工事の数々にたずさわった事業家です。

開館にあたっては旧宅内に残されていた貴重な美術工芸品・生活用品等を町に寄贈した。これら土屋家からのコレクションを中心に展示し、真鶴町の産業の歴史を理解する漁業・石材業関係の資料も常設展示している。

なお、年中行事の折々に合わせた特別展示を開催し、住民の民俗資料を蒐集するよう努めている。

主な特別展示計画は次の通り。

(1)お正月展示（一月）
(2)雛人形展　（三月）
(3)端午の節供展（五月）
(4)歴史を知る展〈例源頼朝〉（七月）
(5)重要文化財展（九月）
(6)土屋家寄贈特別展（十一月）

※その他必要に応じて、漸次展示変えをしている。

●開館日　毎週火・木・土・日曜日・祝祭日（翌日休館）
◎午前十時から午後四時まで

●入館料　無料

●展示品　美術工芸品・生活用品・漁業石材業の資料など

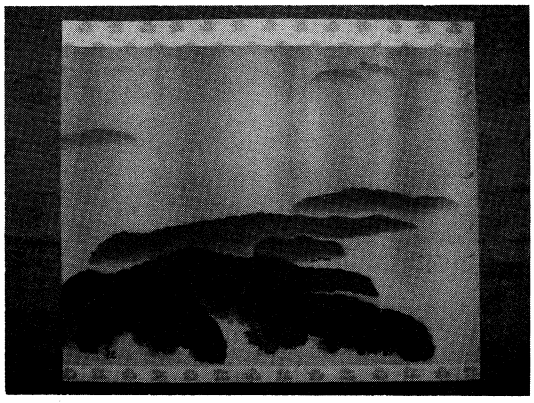
編集後記

文化財だより四号が、皆様のご協力でできました。

一号では「文化財の保護と活用」を、二号では、「石材業の歴史」、三号では「漁業の歴史」を特集しましたが、本号は、「文化財の探訪」を特集しました。

取材に当たり関係者の多くの方々にご指導や助言を載き、特に神社や寺院では、快よく資料を提供され紙面を充実することができました。心より感謝を申し上げるとともにお礼を申し上げる次第です。

真鶴町民が自分の住んでいる町を愛し町の文化を高め、誇りとし、個人の教養に役立てることを念願しております。



「湖上の雨」横山大観画